

氏名： 加賀美 常美代
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 文学博士（東北大学）
専門分野： 異文化間心理学、異文化間教育、多文化間カウンセリング
E-mail： kagami.tomiyo@ocha.ac.jp
URL： http://jsl.li.ocha.ac.jp/kagami.htm

◆研究キーワード / Keywords

異文化間コンフリクト／多文化間カウンセリング／コミュニティ心理学的アプローチ／教育価値観
intercultural conflict / multicultural counseling / Community approach / educational value

◆主要業績

総数（7）件

- ・加賀美常美代・守谷智美・楊孟勳・堀切友紀子 29 「台湾における日本イメージの形成：9分割統合絵画法による分析」『台湾日本語文学報』26号 pp258-38
- ・加賀美常美代・朴志仙・守谷智美・岩井朝乃・楊孟勳・堀切友紀子 29 「韓国と台湾における小・中・高・大学生の日本イメージの形成過程の差異」第3回異文化間教育学会大会発表抄録集 pp146-147
- ・加賀美常美代 21 26?29年度「韓国と台湾における小・中・高・大学生の日本イメージの形成過程と規定要因」報告書 pp1-76
- ・加賀美常美代 21 29年度「奈良世界遺産から学ぶ異文化理解教育研修」報告書 pp.1-83
- ・加賀美常美代 「大学生の一般的価値観の国際比較大学生の一般的価値観の国際比較」21 第17回多文化間精神医学会抄録集 pp83

◆研究内容 / Research Pursuits

1. アジア諸国の日本イメージの形成過程と規定要因
CSDの異文化間コミュニケーション・プロジェクトで、前年度、韓国、台湾の調査の小学生から大学生までの日本イメージ形成の調査を行なったので、台湾の描画の質的分析の論文化を行った。また、26年から29年までの一連の共同研究結果をもとに報告書を作成した。
2. 葛藤解決のための異文化理解教育プログラム開発
CSDの一連の日本イメージ調査成果からどのようなプログラムが集団間葛藤を解消できるか、異文化理解に有効か、教育プログラムの開発をした。そのプログラムを実践し、成果を検討し報告書を作成した。
3. 大学生の価値観の国際比較
科研でShwartzの個人レベルの価値観尺度に基づき7カ国の大学生を対象に価値観の調査を実施し比較検討した。

1. Perceptions of Japan in Asia : an analysis of images.
I wrote a paper on Qualitative Research on Drawings of Taiwanese Young People and Children, based on the results of the investigation regarding how Korean and Taiwanese young people and children formed their images of Japan, which I conducted in the Project of Cross Cultural Communication of CSD in the previous year. In addition, I drew up a report about the results of a series of joint researches on conducted from the year 2006 through 2008.
2. Development of Intercultural Understanding Education Program for Resolving Conflicts
I developed Educational Program which was expected to help resolving intergroup conflicts or understanding cross-culture by closely examining the results of survey on images of Japan in CSD.
3. Research of individual and social values of universities' students in seven countries
Under the Grants-in-Aid for Scientific Research, I conducted a research on university students' individual and social values by using Schwartz' s value Scales in seven countries and weighed the results.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部の「多文化間交流論」は、参加型授業、協働的グループ活動を行った。留学生と日本人学生の交流、コミュニケーション・スキルの向上を目指した。「多文化共生論」は、4名のゲストスピーカーを招き多文化共生社会の理解とグループ討論を行なった。「文化と人間関係?」では、文化行動と心理学的理論をゼミナール形式で行った。「文化と人間関係?」では、異文化接触をテーマとする学生を対象に卒業論文指導を行った。

大学院の「多文化間カウンセリング特論」では、文化と学校カウンセリングの理論と研究方法について文献講読を通して講義を進めた。「多文化カウンセリング演習」では、多文化間カウンセリング、留学生アドバイジング、予防的支援活動の方法のスキル向上を目指した。

I delivered lectures of “Multicultural communications and exchange” and “Coexistence in Multicultural society” for undergraduates. In these lectures, I adopted the methods of cooperative group work. I aimed at their improving of foreign and Japanese students' communication skill in the former, and, in the latter, I invited guest speakers in order for them to improve multicultural understanding and diversity. In “Culture and Human relationship I” for undergraduates, I delivered lectures on cultural behavior and social psychology.

In “Culture and Human relationship?” for undergraduates, I advised graduation theses for students who are interested in intercultural psychology.

For graduates, I taught “Multicultural counseling and Psychology”. In this lecture, I put emphasis on methodology of intercultural communication and school counseling research. In “Seminar in Multicultural counseling and Psychology”, I aimed at their improving skill of multicultural counseling, international student advising, active listening and preventive support activity.

◆研究計画

- ・多文化間の教育に関わる人々、多様な国籍の人々を対象に、葛藤解決方略と教育価値観、文化的価値観の関連を比較検討する。
- ・教育価値観の世代間比較を行い、教育価値観尺度の有効性について検討する。
- ・アジア諸国の小学生から大学生までの対日イメージ形成過程についての調査の質的、量的分析を進め、多角的に分析を行い、問題と今後の課題を明らかにする。
- ・異文化間コンフリクト解決プログラムの開発を検討する。

◆メッセージ

多様な文化的背景をもつ人々は、日常生活で遭遇する異文化体験から様々な葛藤やストレスを抱えています。異文化接触のメカニズムを理解するとともに、周囲にいる人々は彼らをどのように理解し、関わっていったらよいでしょうか。

コミュニティにおける多様性の意味や文化的背景の異なる人々と共に生きることはどのようなことか、一緒に体験しながら考えていきたいと思っています。